

体育授業における教師の笑顔表出と授業評価の関連性の検討

：学習者の「楽しさの体験」の評価に着目して

木 山 慶 子・松 倉 海 斗・小川勇之助

群馬大学教育実践研究 別刷

第36号 117～124頁 2019

群馬大学教育学部 附属学校教育臨床総合センター

体育授業における教師の笑顔表出と授業評価の関連性の検討 ：学習者の「楽しさの体験」の評価に着目して

木 山 慶 子^{*1}・松 倉 海 斗^{*2}・小 川 勇之助^{*3}

*1 群馬大学教育学部保健体育講座

*2 沼田市立沼田東小学校

*3 群馬大学教育学部附属中学校

Relationship between teacher's smiling and formative evaluation of physical education classes

Keiko KIYAMA^{*1}, Kaito MATSUKURA^{*2}, Yunosuke OGAWA^{*3}

*1 Department of Physical Education, Faculty of Education, Gunma University

*2 Numata Junior High School

*3 Junior High School Affiliated with Gunma University School of Education

キーワード：体育授業、楽しい、笑顔、形成的授業評価

Keywords : physical education classes, pleasure, teacher's smiling, formative evaluation

(2018年10月31日受理)

1 はじめに

授業における教師の笑顔表出は、教師行動に関わる、必須の教授技能であることは、周知である。藤沢(1984)は、魅力ある授業の内容の一つに「自己表現」があり、その方策として、「笑顔を絶やさない。」ことを挙げている。志水ら(2014)は、初任者教師の授業力向上のための授業の診断基準として「笑顔で接している」をその一つに設定している。平岡(2010)は、教員の指導力改善に向けた取り組みの中で、気になる(問題のある)教員の特に指導上問題がある点として、「笑顔が一度もない。」を挙げている。さらに、小柴ら(2014)は、中・高校生が理想とする先生の条件として「だれに対しても笑顔で明るくかわること」が上位にあることを報告している。益子ら(2012)は、教師の表情が、クラスの雰囲気や子どもの学習態度に強く影響し、笑顔が特徴的な教師のクラスは、統

一感や親愛感がある雰囲気であることが示され、教師の表情の重要性について示唆されたとしている。

また、笑顔の役割の重要性については、中村(2000)が、人間の感情の多くは顔の表情として表れることから、感情伝達のメディアとしての表情の重要性を指摘し、様々な感情のうち、楽しさ等の快感情の多くは「笑顔」として表出すると述べている。さらに、表情が他者に対し感情に関する情報を伝達する社会的メディアとしての役割を果たすと考えられ、授業中の学習者の心理状態を窺い知る情報源として表情が重要な役割を果たしていると述べている。横山(1992)は、教師自身が意図した表情を身振り手振りと同様、効果的に使用することで、より正確な情報を伝えられることを述べている。加えて、その意図的な表情の表出について教師歴10年以下より11年以上の経験を持った教師の方が、より意図的な表情を表出していることを報告している。伊佐(2009)は、教師と子

どもの良好な関係づくりのために笑顔で振舞うといった例から、経験を積んだベテランの教師は、自らの感情管理が教授行為を成立させるための重要な要素として捉えられているとする。

体育授業においても、日野（2003）は、大学生の模擬授業での振り返りの中で、よい点として「最も目立っていたのが教師役の笑顔だった」との意見を上げている。

一方、中央教育審議会答申（2002）は、体育科、保健体育科における課題として「運動を好きにさせたり、楽しく運動をさせる指導の工夫が不十分である。」ことを指摘している。これらを受け、中学校学習指導要領保健体育編（2008）において「生涯にわたって運動に親しむことで明るく豊かな生活を営むこと」が教科の目標に掲げられた。生涯スポーツの基礎づくりとなる体育授業が「楽しい」と感じられるよう展開されることが求められており、そのためには授業における教師行動が重要なカギとなる。

体育授業における教師行動は、①インストラクション（説明、指示、演示などの直接的指導）、②マネジメント、③観察行動、④相互作用（発問一応答、フィードバック^{注1)}、励まし）の4つに大別される（高橋、2003）。そのうち、「相互作用」が子どもたちの形成的授業評価にプラスに影響する（高橋、2003）。この「相互作用」は、賞賛、助言、励まし、補助などであり、特に運動技能学習に関わる肯定的フィードバック・矯正のフィードバックや励ましを積極的に与えることが効果的な教師行動とされる（高橋、1996）（高橋ら、1991）。先の形成的授業評価は、学習者の主観的評価法ではあるが、体育授業のめざす「よい授業」に直結するものであり、この評価の得点が高ければ、よりよい体育授業となる。形成的授業評価は、「成果」「学び方」「協力」「意欲・関心」の4つの因子からなり、そのうち「意欲・関心」の中に「楽しかったですか。」の質問項目がある。よって、授業における教師の相互作用行動の良しあしが、「楽しさ」を含む体育授業の評価に影響するということになる。

また、観察者による体育授業の評価のための「チェックリスト」には、その因子として、「教師の相互作用」「学習環境」「学習行動」「授業の勢い」の4つがあげられ、「教師の相互作用」には、「先生の表情や表現が豊かであったか。」が含まれる。観察者が授業を評価するための視点にも、教師の表情があり（高

橋ら、1996）、この表情は、笑顔の意味するものであると考えられる。

このように、教師の笑顔表出は、教師の相互作用行動として、体育授業の評価を高めることにつながり、特に「楽しい」の意欲・関心に関わると推察できる。先述のように体育授業が「楽しい」と学習者が感じることであれば、学校体育における「生涯スポーツ」への基礎づくりが実現できると考える。

しかしながら、体育授業の中で、教師がいつどこで、どのくらい笑顔を表出しているか、それが、教師行動（相互作用）や授業場面、授業評価にどのように関連しているかの報告は見られない。

よって、本研究では、実際の体育授業における教師の笑顔表出を頻度としてとらえ、その数を調査し、それが、教師行動（相互作用）、授業場面、授業評価にどのように関連しているのかを検討することにより、教師における笑顔表出の重要性について考察することを目的とする。

II 研究方法

1. 調査対象・期日及び方法

調査対象は群馬県F中学校の体育授業である。調査対象者は調査対象授業指導の担当教師A教師1名（教師歴10年以上）及び学習者2年生34名、1年生33名、単元は「球技（ハンドボール）」であった。

期日は、平成29年9月～12月であった。

方法としては、対象授業をビデオカメラにより、教師行動および授業全体を撮影・記録した。

2. 調査内容

A教師の体育授業における笑顔表出数、教師の相互作用数、および体育授業場面、学習者による形成的授業評価を調査した。

3. 分析方法

1) 笑顔表出数

記録した授業から、教師の笑顔表出数を3人の観察者によってカウントした。ここでの「笑顔」の判断基準は、わずかな表情の変化であっても3人の観察者の2人以上が「笑顔」と判断したものを、その意味内容に関わらず「笑顔」とし（田村、2002）、その

頻度を集計した。

2) 教師の相互作用と笑顔表出数

教師の相互作用行動の観察コーディングシート（高橋・中井、2003）を使用し、授業記録より相互作用（発問、肯定的フィードバック、矯正のフィードバック、否定的フィードバック、励まし）の回数をカウントし集計した。さらに、教師の相互作用と笑顔表出数との関係性を検討した。分析にはSPSSを使用した。

3) 体育授業場面^{注2)}と笑顔表出数

体育授業場面のコーディングシート（高橋・吉野、2003）を使用し、授業場面（学習指導、運動学習、認知学習、マネジメント）の時間を記録し、集計した。さらに、体育授業場面と笑顔表出数との関係性を検討した。

4) 形成的授業評価^{注3)}と笑顔表出数

授業終了後に生徒への形成的授業評価（高橋、2003）を実施し（3件法による3点満点）、それらを集計し、評定（1～5）^{注4)}を求めた。さらに、形成的授業評価と笑顔表出数との関係性を検討した。分析にはSPSSを使用した。

III 結果及び考察

1. 予備調査

まずは、教師が授業の中で、どの程度の笑顔を表出するのかを把握するため、2つの授業について予備調査を実施した。調査対象は群馬県F中学校の体育授業である。調査対象者は調査対象授業の担当教師A教師1名（教師歴10年以上）及び学習者2年生、単元は、授業A「武道（柔道）」、授業B「球技（ハンドボール）」であった。

その結果、笑顔表出数は、授業Aが67回、授業Bが21回であった。また、教師の相互作用行動数は、授業Aが92回、授業Bが75回であり、相互作用のうち、笑顔を伴う肯定的フィードバックが最も多く確認された。さらに、授業場面は、運動学習場面の割合が最も高く、その場面において笑顔表出数も多く確認された。

2. 本調査

1) 授業の概要

6つの授業について調査した。

単元はすべて「球技：ハンドボール」であった。

授業①～⑥の流れは以下のとおり（表1～6）である。

表1 授業①の流れ

導入	<input type="checkbox"/> 挨拶・準備運動を行う。 <input type="checkbox"/> ウォーミングアップを行う。 ・腕立て伏せ ・ペアで馬跳び <input type="checkbox"/> チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ドリブルシュート ・パス練習（ノーバウンドパス・バウンドパス） <input type="checkbox"/> バスケットボールの試合を行う。 ・黄VS青 ・白VS赤
展開	<input type="checkbox"/> めあての確認 めあて：ジャンプシュートができるようにしよう <input type="checkbox"/> チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・ジャンプシュート ・キーパーありの練習 <input type="checkbox"/> ハンドボールの試合を行う。 ・白VS青 ・黄VS赤
整理	<input type="checkbox"/> 本時のまとめを行う。 ・実技試験についての説明

表2 授業②の流れ

導入	<input type="checkbox"/> 挨拶・準備運動を行う。 <input type="checkbox"/> ウォーミングアップを行う。 ・腕立て伏せ ・ペアで馬跳び <input type="checkbox"/> チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ゴールしたシュート <input type="checkbox"/> シュートのポイントを提示する。 めあて：シュートのポイントを意識してシュートを成功させよう <input type="checkbox"/> バスケットボールの試合を行う。 ・黄VS青 ・白VS赤
展開	<input type="checkbox"/> チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・シュート練習 ・サイドシュート練習 <input type="checkbox"/> ハンドボールの試合を行う。 ・黄VS白 ・赤VS青 ・3位決定戦 ・決勝戦
整理	<input type="checkbox"/> 本時のまとめを行う。

表3 授業③の流れ

導入	<input type="checkbox"/> 挨拶・準備運動を行う。 <input type="checkbox"/> ウォーミングアップを行う。 ・腕立て伏せ ・ペアで馬跳び <input type="checkbox"/> シュートのポイントを提示する。 めあて：シュートのポイントを意識してシュートを成功させよう <input type="checkbox"/> チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ゴール下シュート <input type="checkbox"/> バスケットボールの試合を行う。 ・黄VS青 ・白VS赤
----	--

展開	○チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・シュート練習 ・サイドシュート練習 ○ハンドボールの試合を行う。 ・黄VS赤 ・白VS青
整理	○本時のまとめを行う。

表4 授業④の流れ

導入	○挨拶・準備運動を行う。 ○ウォーミングアップを行う。 ・腕立て伏せ ・壁タッチ ○チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ゴール下シュート ・ドリブルからシュート ・ペアでドリブルからシュート ○バスケットボールの試合を行う。 ・赤VS白 ・黄VS青
展開	○本時のねらいをつかむ。 めあて：ロイター板を使ってジャンプシュートの練習をしよう。 ○チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・ジャンプシュート ・ロイター板を用いたジャンプシュート ○ハンドボールの試合を行う。 ・赤VS青 ・白VS黄
整理	○本時のまとめを行う。

表5 授業⑤の流れ

導入	○挨拶・準備運動を行う。 ○ウォーミングアップを行う。 ・馬跳び ○チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ゴール下シュート ・ドリブルからシュート ・ペアでドリブルからシュート ○バスケットボールの試合を行う。 ・赤VS白 ・黄VS青
展開	○本時のねらいをつかむ。 めあて：ロイター板を使ってジャンプシュートの練習をしよう。 ○チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・ジャンプシュート ・ロイター板を用いたジャンプシュート ○ハンドボールの試合を行う。 ・赤VS青 ・白VS黄
整理	○本時のまとめを行う。

表6 授業⑥の流れ

導入	○挨拶・準備運動を行う。 ○ウォーミングアップを行う。 ・馬跳び ○チームごとにバスケットボールでアップを行う。 ・ゴール下シュート ・ドリブルからシュート ○バスケットボールの試合を行う。 ・赤VS青 ・黄VS白
展開	○本時のねらいをつかむ。 めあて：ロイター板を使ってジャンプシュートの練習をしよう。 ○チームごとにハンドボールの練習を行う。 ・ロイター板を用いたジャンプシュート ○ハンドボールの試合を行う。 ・赤VS白 ・黄VS青
整理	○本時のまとめを行う。

2) 笑顔表出数

6つの授業における笑顔表出数は表7に示す。

表7 授業ごとの笑顔表出数

授業	①	②	③	④	⑤	⑥
クラス	1組	4組	2組	3組	2組	3組
笑顔表出数	73	62	78	35	47	70

(回)

すべての授業で、笑顔表出が確認された。授業③での笑顔表出数が最も多く(78回)、授業④の笑顔表出数が最も低かった(35回)。また、授業④と授業⑥は同クラスであるが2倍の差があった。(授業③：35回 授業⑥：70回)

以上のことから、すべての授業で笑顔表出が見られるが、授業ごとに笑顔表出数は変化しており、また単元の授業回数や授業内容によって変化すると考えられる。

3) 教師の相互作用と笑顔表出数

授業ごとの教師の相互作用行動の回数とそれぞれの相互作用行動における笑顔表出数を示したものが、表8である。

すべての授業で40回以上の相互作用行動が行われていた。授業②が最も多い78回、授業④が最も少なく45回であった。また、すべての授業で、フィードバックの回数が多く、さらに笑顔を伴うフィードバックが確認された。中でも「ナイスシュート」や「うまい」な

表8 授業ごとの相互作用回数と笑顔表出数

授業	①	②	③	④	⑤	⑥
発問	3	7(1)	1	2	3	6(1)
フィードバック	肯定 一般	40(17)	43(17)	48(18)	26(5)	41(5)
	肯定 具体	0	0	2	1	1
	矯正 一般	18(7)	14(8)	8(5)	6(1)	9(5)
	矯正 具体	4	2	0	2(1)	4(1)
否定	一般	7(5)	17(2)	6	3	2(1)
	具体	0	0	1(1)	1(1)	0
励まし	6	5(1)	3	4(1)	2	2(1)
計	78(29)	88(29)	64(24)	45(9)	62(12)	64(26)

相互作用回数(笑顔表出回数)

どの肯定的フィードバックが多く、それに伴って肯定的フィードバックでの笑顔表出数も多かった。次に多かったのは、「おいしい」や「もう少し」などの矯正的フィードバックであり、それに伴って笑顔表出数が肯定的フィードバックに次いで多くなった。

統計分析を行った結果、授業間での教師の相互作用行動および笑顔表出数の有意差は認められなかった。

以上のことから、A教師は全授業において相互作用行動を積極的に行っており、特に肯定的フィードバックが多く、それに伴い笑顔も多く表出された。

4) 体育授業場面と笑顔表出数

次に授業ごとの体育授業場面における笑顔表出数を示したものが、表9である。

すべての授業の体育授業場面において「運動学習場面」の時間が50%以上確保されており、最も多かったのは授業②(69%)であり、最も少なかったのは授業④(51.8%)であった。

笑顔表出数は、「運動学習場面」で多くみられた(授業①:41回 授業②:34回 授業③:69回 授業④:28回 授業⑤:34回 授業⑥:52回)。

表9 授業場面における笑顔表出数

授業場面	学習指導	認知学習	運動学習	マネジメント
①	時間(%)	9分50秒 20.7	0 0	30分30秒 64.6
	笑顔表出数(回)	6	0	41
②	時間(%)	7分50秒 15.4	0 0	33分30秒 69.0
	笑顔表出数(回)	8	0	34
③	時間(%)	13分30秒 27.0	1分30秒 3.6	26分30秒 53.1
	笑顔表出数(回)	6	0	69
④	時間(%)	7分20秒 14.4	1分40秒 3.3	26分50秒 51.8
	笑顔表出数(回)	1	0	28
⑤	時間(%)	6分50秒 13.2	1分30秒 2.9	29分00秒 56.1
	笑顔表出数(回)	5	0	34
⑥	時間(%)	8分10秒 16.6	0 0	28分20秒 57.8
	笑顔表出数(回)	7	0	52

表10 授業ごとの形成的授業評価得点

		授業					
次元	項目	①	②	③	④	⑤	⑥
成果	感動の体験	2.18	2.55	2.82	2.75	2.90	2.81
	技能の伸び	2.70	2.71	2.82	2.81	2.90	2.94
	新しい発見	2.76	2.87	2.94	2.88	2.90	3.00
意欲・関心	精一杯の運動	2.82	3.00	3.00	2.94	3.00	3.00
	楽しさの体験	2.94	3.00	3.00	2.88	2.97	2.97
めあて	自主的学習	2.82	2.97	2.91	2.88	2.93	3.00
	めあてをもった学習	2.76	2.87	2.79	2.75	2.90	2.94
協力	仲よく学習	2.97	2.87	3.00	2.84	3.00	3.00
	協力的学習	2.82	2.94	2.85	2.78	2.93	2.97
総合評価(評定)		2.78(5)	2.91(5)	2.89(5)	2.81(5)	2.94(5)	2.98(5)

すべての授業において「認知学習場面」での笑顔表出は確認できなかった。

以上のことから、体育授業でより多く求められる「運動学習場面」における笑顔表出数が多いことがわかった。「運動学習場面」では、生徒の主体的な活動の様子や学習成果が顕著に表れる場面であること、3)で示した教師の相互作用行動のフィードバックが積極的に行われていたことから、笑顔が多く表出したと考えられる。

5) 形成的授業評価と笑顔表出数

授業ごとの形成的授業評価を、表10に示した。

すべての授業において形成的授業評価での総合評価は、その得点から評定最高の「5」であった。中でも総合評価の得点は、授業⑥(2.98)が最も高く、最も低かったのは授業①(2.78)であった。

さらに、授業の楽しさと笑顔表出の関連を検討するため、意欲・関心次元の中の「楽しさの体験」を抽出し、その得点及び総合評価得点と笑顔表出数の関係を、表11及び図1に示す。

表11 授業ごとの形成的授業評価と笑顔表出数

授業	①	②	③	④	⑤	⑥
笑顔表出数(回)	73	62	78	35	47	70
楽しさの体験(点)(評定)	2.94(4)	3.00(5)	3.00(5)	2.88(4)	2.97(4)	2.97(4)
総合評価(点)(評定)	2.78(5)	2.91(5)	2.89(5)	2.81(5)	2.94(5)	2.98(5)



図1 授業ごとの形成的授業評価と笑顔表出数

すべての授業において30回以上の笑顔が確認され、中でも授業①、③、⑥では70回以上の笑顔が確認されている。また「楽しさの体験」項目では、授業②、③で学習者全員が満点(3.00)をつけ、授業①、⑤、⑥についても2.9を超える得点となり、最も低かったのが、授業④(2.88)であった。

統計的な分析を行った結果、形成的授業評価の全ての項目と笑顔表出数の相関関係は認められなかった。しかしながら、数値だけを見ると、授業④は笑顔表出数が最も少なく(35回)、楽しさに関係のある「楽しさの体験」でも全授業の中では最も低い評価となった。

IV まとめ

1. 本研究から得られた知見と示唆

本研究は、授業における教師の笑顔表出数が、教師行動、授業場面、授業評価にどのように関連しているのかを検討することにより、教師における笑顔表出の重要性について考察することを目的とした。

本研究における結果は、以下のようにまとめることができる。

- ・調査対象としたすべての体育授業について、運動学習場面は50%を超え、相互作用行動は1回を除き60回以上となり、形成的授業評価の評定「5」であったことから、おおむねよい体育授業であったと評価

できる。

- ・笑顔表出数は、授業ごとに変化し、また単元の授業回数・内容によって変化すると考えられる。
- ・相互作用行動と笑顔表出数では、A教師はすべての授業において積極的に相互作用を行っており、それらには笑顔が伴っている。
- ・体育授業場面と笑顔表出数では、体育授業でより多く求められる運動学習場面において笑顔表出数が多いことがわかり、これは生徒の主体的な活動の様子や学習成果が表れる場面であるため、教師の積極的な相互作用行動により、笑顔が多く表出したと考えられる。
- ・形成的授業評価と笑顔表出数においては、笑顔と楽しさとの直接的な関連を示すことはできなかったが、笑顔が少ない授業での形成的授業評価における「楽しさの体験」も低い評価であった。

以上のことから、教師の笑顔表出は、すべての授業で確認され、特に運動学習場面での肯定的フィードバックや矯正のフィードバックの際に笑顔を伴うことが示された。さらに、笑顔と子どもたちの評価する授業の「楽しさ」との明らかな関連性を断定することはできなかったが、笑顔が少ない授業では「楽しさの体験」も低い評価となったことが示され、今後の課題となった。

よって、体育授業における教師の笑顔表出は、授業評価に影響があり、よい授業を行うためには、教師の笑顔表出が重要であることが示唆された。

2. 今後の課題

今回の調査では調査対象校1校および対象教師1名であったため、今後はさらに調査対象を増やし、より多くのデータ収集と分析が必要である。

また、今回は、観察者のわずかな表情の変化を見取り3人の観察者の2人以上の同意により「笑顔」であると判断した。この「笑顔」について、学習者を対象にした「笑顔」に限定して抽出することも必要であると考えられた。

さらに、今回は学習者を対象とした形成的授業評価のみを実施した。今後は、学習者だけではなく、教師への質問紙調査等を実施することで、教師の意図的な笑顔表出を把握することができると考える。

注

- 1) フィードバックとは、「次の反応を修正するために利用される情報」と規定され（シーデントップ、1988）、具体的には、学習者に対する賞賛や助言さらには課題提示などである（深見、2010）。
- 2) 体育の授業な授業場面は、①インストラクション場面（教師の指導場面、説明や指示）、②マネジメント場面（移動、待機、準備、後片付け）、③運動学習場面、④認知学習場面の4つに区分できる。よい体育授業のための基礎的条件として、運動学習場面に配当される時間量が多く、インストラクションやマネジメントに配当される時間が少ないことがあげられる（高橋、2003）。
- 3) 形成的授業評価法は、主に単元の「なか」の授業を評価する方法である。4次元9項目の調査票を授業終了時に学習者へ配布し、「はい」（3点）、「どちらでもない」（2点）、「いいえ」（1点）で回答させ、調査票回収後クラス平均を算出し、あらかじめ明らかにされている診断基準によって、授業の良しあしを評価できる仕組みになっている（吉野、2010）。
- 4) 3) に示したあらかじめ明らかにされている診断基準である（高橋、2003、p164）。形成的授業評価の得点によって、「5」～「1」に診断することができる。

引用・参考文献

- 中央教育審議会答申（2002）「子どもの体力向上のための総合的な方策について」
- ダリル・シーデントップ：高橋健夫訳（1988）体育の教授技術、大修館書店
- 深見英一郎（2010）モニタリングと相互作用技術、高橋健夫（編著）体育科教育学入門、大修館書店、pp90-97.
- 藤沢伸介（1984）「教師の考える「授業の魅力」について」跡見学園女子大学紀要 第17号 pp17-24.
- 文部科学省（2008）「中学校学習指導要領解説 保健体育編」
- 日野克博（2003）「体育授業教育カリキュラムの検討：愛媛大学での模擬授業の実践を例にして」愛媛大学教育学部保健体育紀要 vol.4. pp49-57.
- 平岡健（2010）「教員の指導力改善に向けた取組」埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター pp159-168.
- 伊佐夏実（2009）「教師ストラテジーとしての感情労働」教育社会学研究第84集 pp125-144.
- 小柴孝子・武田明典・村瀬公胤（2014）「中・高生が求める理想の教師像：「教職実践演習」カリキュラム開発のために」神田外語大学紀要26 pp489-569.
- 中村真（2000）「表情と感情のコミュニケーションー表示規則と感情表出のモデルー」心理学評論43. pp307-317.
- 益子行弘・齋藤美穂（2012）「教師の表情とクラス雰囲気との関連性の検討」日本感性工学会論文誌 vol.11 no.3 pp483-490.

- 澤聡美 (2017) 「楽しい体育授業の満足度に影響する要因」 人間発達科学部紀要 第11巻第3号 pp31-37.
- 志水廣・小林美記代 (2014) 「初任者教師の授業力向上のための手立て—授業診断表に基づく事例研究—」 愛知教育大学教育創造開発機構紀要 vol.4 pp139-147.
- 高橋健夫・岡崎祥訓・中井隆司・芳本真 (1991) 「体育授業における教師行動に関する研究」 体育学研究36 (3) pp193-208.
- 高橋健夫 (1996) 「教師の相互作用及びその表現のしかたが子どもの形成的授業評価に及ぼす影響」 スポーツ教育学研究 Vol.16 No1. pp13-23.
- 高橋健夫 (2003) 体育授業を観察評価する. 明和出版.
- 高橋健夫・長谷川悦志・日野克博・涌井孝夫 (1996) 「体育授業観察チェックリスト作成の試み: 観察者の評価観点の構造を手がかりに」 体育学研究41 pp181-191.
- 高橋健夫・中井隆司 (2003) 教師の相互作用行動を観察する. 高橋健夫 (編著) 体育授業を観察評価する. 明和出版. pp49-52.
- 高橋健夫・吉野聡 (2003) 体育授業場面を観察記録する. 高橋健夫 (編著) 体育授業を観察評価する. 明和出版. pp36-39.
- 田村進 (2002) 「体育の授業内容が学習者の運動量・楽しさ・笑顔に及ぼす影響」 広島文教教育Vol.17. pp13-21.
- 和田実 (1996) 「非言語的コミュニケーション—直接性からの検討—」 心理学評論 Vol.39 pp137-167.
- 横山一郎 (1992) 「体育授業における表情コミュニケーションに関する研究 (1)」 日本体育学会大会予稿集 41B (0) p783.
- 吉野聡 (2010) 体育の授業評価. 高橋健夫 (編著) 体育科教育学入門. 大修館書店. pp82-88.

(きやま けいこ・まつくら かいと・おがわ ゆうのすけ)